

地域づくりインターンシップ in 松阪市 活動レポート

地域づくりや地域活性化に関心のある大学生4名が、松阪市の「宮前まちづくり協議会」でインターンシップを行いました。活動では、宮前フェスティバルや飯南町有間野の餅つき大会の運営などに取り組み、地域の方々と意見交換も行いました。

インターンシップの活動内容

宮前フェスティバルの運営補助

一大行事である宮前フェスティバルに運営スタッフとして参加した。当日はあいにくの雨天となりウォーキングイベントは中止されたが、事前打ち合わせにも参加し、受付や景品配布などを行った。協議会の皆様の温かい人柄や雰囲気大切に、若者らしい元気や明るさを意識して取り組んだ。



▲屋内での取組(インフルエンザ予防の啓発)の様子



▲景品の配布

飯南町有間野の餅つき大会の運営補助

地域行事の1つである飯南町有間野地域で餅つき大会の運営補助を行った。地域行事の運営を実践的に経験しつつ、地域の子も達や高校生と一緒に行事に参加し、コミュニケーションをとることによって、地域活動の意味や人が集まる機会をつくる大切さに気づくことができた。



▲餅つきの様子



▲つきたてのお餅を配膳

若者と地域の意見交換会で得られた気づき

① 「移住」は未来を切り拓くきっかけ

宮前には市街では経験できないことがたくさんある。楽しいと感じた記憶の片隅に残るような体験が、後になって自分のやりたいことを考えるときに繋がってくると思う。自分の未来を切り拓く上での一步として、宮前は良い地域だと思った。（地域）

移住者向けの情報発信、特に移住前後のサポートに関する情報発信が手厚くなると良いと思った。（学生）

②人の温かさをどう伝えるか

初めてお会いした方に個人的な相談をしたときに、すごく温かく相談に乗っていただいて人の温かさに触れられたのが印象的だ。ただ、それがインターネットでは伝わりにくいので、伝え方が大切だと思った。（学生）

③認知されにくい活動

子育て支援活動にも取り組んでいるが、若者に伝わっていないことに気づけた。（地域）



▲地域の方々との意見交換会の様子

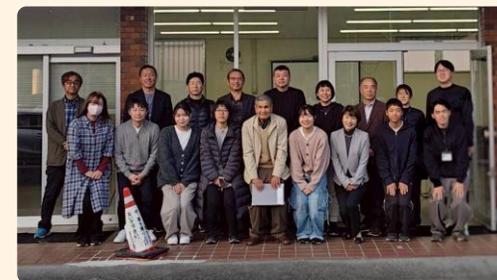
参加した学生の感想

■今後も地域が続いていくためには、現状をただ受け止めるだけでなく、小さくても何らかの行動を起こしていくことが重要だと感じた。行動がなければ、地域の衰退は止められない。（三重大学 修士1年）

■まず地域の魅力や課題を「知ること」が不可欠であることを実感した。また、地域の外から一方的に変えようとするのではなく、地域の方の目線に立って課題を見つめ、要望に応じていく姿勢が重要だと学んだ。（三重大学 3年）

■地域活動には、地域を盛り上げて、もっと良くしようと考える人の存在が最も大切だと実感した。そして諦めずに目標に向けて一貫して地域の人に取り組むことで、地域が盛り上がるのではないかと考えた。（三重大学 3年）

■行政の立場では移住者促進や既存住民コミュニティの維持などに対して様々な政策が考えられるが、まちづくりは民間に大きく支えられるものであるということも学んだ。（三重大学 3年）



▲地域の方々と学生たち